【資料２：児玉三夫】

『児玉三夫対談集 ～教育の源流を求めて～』（1987 年）
対談テーマ：「大学教育と図書館」

対談者：児　玉　三　夫（明星大学学長）
　　鰺　坂　二　夫（甲南女子大学学長・京都大学名誉教授）

図書館の思い出

児玉　今日は、甲南女子大学の鰺坂先生の所にお伺いいたしまして、ご多忙のところお時間をいただきありがとうございました。甲南女子大学は本当にすばらしい環境ですね。なかなか日本の大学には少ないと思いますが。

鰺坂二夫　景色だけはおかげでいいんですけれども。

児玉　今日お伺いしましたのは、先生の大学で大変立派な図書館をお作りになったり、ずいぶんめずらしい蔵書もお集めになっておられるように聞いております。この図書館は、ご高名な設計者の方が作られた最新の図書館ではなかろうかという、そういうお考えでお作りになったという話も聞きましたので、見学も兼ねて今日お訪ねいたしました。

鰺坂　恐縮です。お蔭さまでどうやら出来ましたけれども、図書館との出会いはふり返ってみると、我われが中学から高等学校へ入った頃、ちょうど大正の末、昭和の初めというころで、お互い成城高等学校 (＊1) だったわけですが、私が第一回で児玉学長が第七回ですね。あの頃の高等学校の図書館を思い出します。武蔵野の林の中に平屋でしたね。書庫だけは二階のようなものがあったと思いますが。あそこで図書館というものを我われ初めて体験したんですが、図書館の正面に「我（われら）の父、沢柳政太郎 (＊2) 先生の像」という胸像があって、その前を通って図書館に入っていく。やっぱり少年時代としては忘れがたい印象だったと思いますね。山下という先生がおられて、この先生は、司書の先生で、たしかあと一人くらい手伝う人があってこじんまりした図書館でしたね。ただ非常にうれしかったことは「何でもほしい本を言え」という、「全部学校で買ってやる」と。まさかと思って皆で相談して持っていったら、それをみんな買ってくれましたよね。初期成城の一つの楽しい思い出になります。

児玉　成城の図書館のことにつきましては、いろいろな思い出がおありでしょうし私もあります。ちょうど成城が出来て間もなくでございましたが、高等学校に図書館が出来まして、ドイツからナトルプの文庫 (＊3) が成城高校に来たというので、日本は勿論のこと世界でも非常に注目されたことでございました。

鰺坂　私が高等学校一年生でしたから忘れられませんね。本が着いた時に皆を集めて、当時の校長の小原国芳 (＊4) 先生が「今、ドイツから着いた、世界的学者の本だ」というので、今と違い大きな箱、中はブリキかなんかで水が入らないようにしてあったものを開けて取り出した時のあの感激というのは忘れられませんね。東京大学にもない、京都大学にもない、我が成城にあるっておっしゃったですよ。

児玉　本当にそうでしたね。大きな箱から開けて出された本を運んだ覚えがございますが、本当に懐かしいです。ナトルプ文庫というのは成城の宝みたいなものでしたね。

鰺坂　本当に宝ですね。

児玉　その後いろんなことに利用させていただいて、日本のために役立っていますね。

鰺坂　四年前に、ナトルプと一緒にドイツで活躍したフォルケルト (＊5) の蔵書が出まして、買わないかって言うことで、すぐ成城のナトルプ文庫を思い出して、それじゃあ是非買おうということで……。しかもフォルケルトとい

うのは、私の大学の恩師の小西重直先生の最初につかれた先生です。どうしてもほしいというので買いましたね。成城の時のことを思い出したんですよ。

児玉　あの随分小さな図書館でしたけれども、随分学生がまいりましてね。小学校の小さい児童もいて随分利用していた覚えがあります。

旧制高校の一年になりました時、ちょうどあの時分の校長先生は社会学の銅直勇[*6]先生でしたが、その銅直先生が歴史の時間をご担当していて、一年間先生のご指導を得たわけですが、夏休みに先生がリポートのテーマを出されました。テーマは「わが国の古代における氏族制度について」でした。この題で、ひと夏あの図書館で、いろんな参考書を使って三〇〇ページくらいのリポートを書いた覚えがございます。秋に学校に持ってまいりましたら、先生が大変びっくりされまして、そのリポートを一ヵ月ぐらいしてから、一ページくらいの批評をしてお返しいただいたのを今でも大切に持っております。図書館には本当にいい参考書もあったりして……。

銅直先生は本当にいい先生で、そのリポートの先生のご批判を今宝物のようにして、自分の幼い時代のリポートと一緒に保存しております。先生のご批評は、リポートにしては努力だったとお褒めになっていながら、やはり中で相当厳しく批評して下さいましてね。若い頃のいろいろな参考文献をもとにして書いたものでありますけれども、やはり羅列みたいな内容になっていたかと思うんですが……。

先生の批評は「氏族制度というものは固定したものではなく、相当長い間移り変わっているんだ。その動態についてもう少し触れてほしかった」と、そういうご批評が書いてありましてね。これは今でも忘れませんが、先生によい批評をいただいたと思って喜んでいます。

鰺坂　高校一年生で、それだけ大きなレポートを書いたとは大変なことですね。

児玉　そういう思い出がございまして、先程先生がおっしゃいましたような、本当に生徒のほしい、学生がほしいという本をよく揃えていただいて、この点は有難かったと思います。

碩学の師と図書館に恵まれて

鰺坂　この間、成城に行きましたら昔の図書館がなく、新しい大きいのが出来ていました。柳田国男先生の本が二万冊ばかり入っていますから、立派な図書館に成長すると思っていますが……。

私がここを卒業して京都大学へ行きました。児玉学長は東京大学に進まれたわけですけれども、両方の大学ともやっぱり日本で一番たくさん本を持った古い大学ですが、京都の場合、私は日を覚えているんですよ、四月八日に京都に着いたんです。そして吉田山が正面に見えて、左側に時計台があって、東大と比べてやや地味だなと思いました。けれども文学部に行って手続を済ませて、二、三日たったあとだったでしょう、大学の中心が図書館だったということがわかったのは。

それこそ恐る恐る哲学科の文庫に入りました。東大もそうですが、京都大学も中央図書館があって、各学部がみんな分館をもっております。そこに入って行って、そうしますと建物も高等学校とは桁はずれのものですね。これは本当の図書館だと、まず感激しました。勿論、鉄でもってずうーと梯子が各階出来ていて、ぎっしり本がつまっていて、最初に見ろといわれたのがジャン・ジャック・ルソーの『エミール』[*7]の初版本。ずうーと下のほうでしたがそれを見せていただき、我われは教育学ですから『エミール』はバイブルみたいに考えていました。その初版本がある。これが図書館かと思って非常に感銘に受けたことを覚えています。東大はもっと大きいですからね。どうですか？

児玉　そうですね。私は東大に入りまして、当時まだ震災後に出来ました木造の粗末な研究室でございました。大学二年の時に新しい校舎が出来たわけです。以前は正門を入ったところの右側に、文学部の建物がございまして、その裏手のほうからずうーとまいりますとすぐ図書館がございました。先生も京都がそうであったように、東大のほう

も本当に今までの高校とは違った、また規模が大きくて本もたくさんございますし、いろいろあいた時間とかいろいろ暇な時に図書館に自由に出入り出来て、本当に良かったと思っています。

先程、成城高校時代の鰺坂先生のいろんなお話を伺ったわけですが、先生が大学院生の時まとめられた『ルソーの教育思想』という、ちょうど文庫本のようなものを頂戴しました。もう一冊はペスタロッチの要約の本をいただきまして、これは初めて頂戴した本だったもんですから、本当に初めから終わりまで読んで感激した覚えがあります。しかもその扉にルソーの「自然に帰れ」という先生の直接の文字がございますし、またペスタロッチのほうは、たしかあれは今のシュタンツのお墓がある所に碑がございますが「すべての他人のために、おのれのためにはなにものもせず」という、このことはどういうことだろうと思って、随分考えさせられた覚えがございます。ああいうことが若い時代、私を触発していただいたものじゃないかと思うのですが……。

鰺坂　恐縮です。あれは小西先生が、ちょうど大学院の学生の頃でしたかね、ちょっとまとめて出せというのでルソーとペスタロッチをそれぞれ書いた次第です。初めて印刷になったものは嬉しいものですよね。私は今でも持っておりますけれども。

児玉　先生は京都大学で、ご専攻が哲学科の教育学でございましたね。やはり哲学的な雰囲気が、ずうーと伝統的に京都にはございましたね。

鰺坂　これは非常に強いもので、西田幾多郎(＊8)先生、田辺元(＊9)先生、宗教哲学の波多野精一(＊10)先生、教育学の小西(＊11)先生、和辻哲郎(＊12)先生も助教授、天野貞祐(＊13)先生は助教授、そういうことで「きら星のごとく」といっては少し言葉が派手ですが大した雰囲気でした。立派な先生と立派な図書館と、これはもう「やるぞ」と思いました。

建物は田舎の女学校みたいな建物でしたけれども、環境も今と違って大変有難かったと思います。そして、僅かな給金をもらって先輩たちが大学院に通いながらで、なんだかんだと教えてくれましたよ。「その問題にはこの本を読め」「それはこの本がいいだろう」という具合に。あと先輩と後輩が同じ部屋で、聞きに行くと「あれがいい、これがいい」と教えてくれる本当に懐かしい所ですね。

児玉　あの頃は学生の人数なども非常に少なくて、本当に先生やまたその仲立ちをしていただく助手の先生の方が、学生との間に入って「こうやったほうがいいぞ」「こういう本を読んだか」といろいろなご指導をしていただいた。こういうことは、今日の大学あたりでは少し不足しているんじゃないかと思いますね。

鰺坂　そうですね。先輩がこの本は何階のどこにあるということを教えてくれます。私ども文化系の学生は、図書館の雰囲気には大きな変化をうけます。ちょうど島崎藤村が、学生の図書館について書いたものを子供さんに送った文章がありますが、ちょうどふさわしいと思いましたので読んでみますとこういうことです。

「講堂に近い所に、新築された赤レンガの建物二階が父さんの学校の図書館にあててありました。学校にはアメリカ人の教師も多く、その人達が国のほうへでも帰ろうとする時寄付していったものもありましたが、その時分の学校の図書館としてはめずらしい本も少なくはなかったです。ある日、父さんがその二階に上ってみました。大きなテーブルを前にひかえて本の出し調べをしている図書館の係も、やっぱり大学へ来て勉強している人でした。その二階では高い声で話をする者もありませんでしたから、まるでそこいらはしーんとしておりました。たまに聞こえてくるのは、鉛筆を削る音くらいなものでした。父さんは本棚の間を見てまわりました。本と本とがたくさん向い合って並んでいます。誰も読もうとする者もないような本が、ほこりの間から顔を出しているのもあります。椅子でも持ってこなければ手の届かないような、高い棚の上までいっぱいに古い本が並んでいます。そこは本の墓地でした。いろいろな本を書いた人達が静かな所で眠っていました。父さんはそういうお墓の並んでいる所へ行って、そこ眠っている人達の名前をあちこちと読んで歩きました。あるお墓の前に来ました。そこにはローマ字で詩集、ロバート・バーンズ(＊14)著と記してあるのを見つけました。父さんもまだ少年でした。バーンズというイギリスの詩人を知ったのは、それが

初めての時でした。不思議にもこちらから少し目をさましかけましたら、そこに眠っていると思った人がお墓から起き上がってきました。あのバーンズのお墓のほうから、青あおとした麦畑の中から鳴く雲雀の声がしてきたり、スコットランドあたりの若い百姓の歌が聞こえてきたりした時は父さんもびっくりしました。その時になって、父さんもそんなお墓に眠っていると思った人達が、私の目を生きかえり生きかえりすることがあることを知りました」こう書いていますけれども、確かに本の前に立って本を手にしてこういう感じを持った藤村、前々からここにいたような気持ちがあったと思いましたね。初版本というのを手にしますと私も「やあ、これか」と思って、ルソーの『エミール』の初版を、本当に感激して手にしたことを覚えています。

稀覯書収集のこと

鰺坂　明星大学ではシェイクスピアの素晴らしいものをお集めになっている。初版ものからいろいろあって、世界でも指折りの図書館になられたと聞いて嬉しいことです。日本にもこんな素晴らしい図書館があるかと思いました。甲南女子大学は僅かしか持っていませんけれども。よく私は「明星に行きなさい。あそこは世界で何番目かだ」というんです。ここまでになるまでには、随分とご苦心があったと思いますが、その辺の苦心談をお聞きしたいと思いますが……。

児玉　先生からそんなに褒めていただきますと、大変恐縮します。けれども先生がご期待になっているようなもんじゃまだまだございません。しかし一所懸命図書館の人達も努力してくれまして、先生がおっしゃるようなシェイクスピア初め、大学にふさわしい本を集めております。これも図書館の職員の方がたの、本当に懸命な努力の賜だと思って、私、心の中で大変感謝申しているんです。先程、藤村の大変立派な話をお聞かせいただきまして感激したんでございますが……。

鰺坂先生は京都大学にお入りになってから、更に大学院で研鑽を積まれ、京都大学が教育学部を作られた時に迎えられて、教育学部の専任の教授として二十四年でしたか、長いことお勤めになり、教育学部長という職へおつきになって、学生騒動時代ですか、大変だった時代を本当にご苦労されたかと思います。そしてご定年になって、こちらの甲南女子大学の学長としてご就任されて、もう何年くらいになりますか。

鰺坂　ちょうど八年になります。

児玉　そうですか。前も立派な大学だったと思いますが、先生、お見えになってからまた面目一新するような立派な大学になられた。特に、大学院の専攻をたくさん設置され、そのほうの稀覯図書も随分お集めになっておられ、私ども見せていただいただけでも本当に素晴らしいなあとこういうふうに思うんですが、その話は機会を改めてお話をお伺いしたいと思います。

先程お尋ねのシェイクスピアのコレクションでございますが、大学の図書館となりますと勿論一般の図書も、また専門の図書もある程度部数を集めなければいけませんし、その他教養的なものとか随分たくさんの蔵書を整えていかなければいけないと思うんですが、中でもやっぱりどこでもあるというものでなく、本当に貴重なその学校だけでなく、日本のため、また世界のために収集していくというような考えでこの十二、三年前から、そういう何か一つ中心になるようなものをということで、いろいろ皆さんと相談をいたしてまいったわけです。

こちらの甲南女子大学では随分おありと聞いております。学部の学生もそうでしょうけれども、大学院の学生が、やはりそういう専門のものを集めたということについては、大変な利益を得ていると思うんですが……。

明星大学でも大学院が理工系では土木工学、化学、物理学、電気工学、人文系で社会学、教育学、心理学と各専攻が博士課程までコースがございまして、どうしてもそういう専攻のためには、特色を持った稀覯書を持つということが、大学図書館の格を上げるというそういうことになるんじゃないかと思っております。

また、学部の段階ですけれども、人文学部の中に社会学と英文学、それから心理学、教育学、そして経済学というようなものがございます。どういうものから集めたらいいかについて、一番最初は学部学科の研究・教育に必要な領域の本ということになり、特にレア・ブックスなどを集め出したのです。そのうち自然にシェイクスピアのコレクションが有名になってまいりまして、努力もしたわけでございますけれども、先生から褒めていただいたことには程遠いことでございます。

シェイクスピア・コレクションのこと

児玉　八年くらい前になりますか、アメリカのワシントンにございます、フォルジャー・シェイクスピア・ライブラリー(＊15)というのがございますが、大変立派な素晴らしい専門のシェイクスピア研究の図書館ですが、有名なスタンダード・オイルの会長、社長をされたフォルジャー氏の奥様が非常にシェイクスピア研究を好まれた方でこの方が四〇年間に亘って自分の私財を投げ打ってお集めになったという、たしかマサチューセッツ州のアンファースト・カレッジのご出身でございまして、現在世界に誇るシェイクスピアの文献を持っています。

そこの図書館で八年程前に重複した本をある程度処分しなくてはいけないということで募集したわけです。たまたま明星大学で依頼したアメリカの本屋が、それを獲得してくれまして当時としては、非常に安い、シェイクスピアのフォリオ(＊16)とクォート(＊17)を含めて参考書等の研究書ですね。そういうものを約五〇〇〇点入手して、それがシェイクスピア・コレクションの土台になって、いわゆるシェイクスピアのクォートとかあるいはフォリオとかいうものを集めだしました。今、ファースト・フォリオは、世界では二〇〇内外しかないといわれています。その内のフォルジャーは七九部持っていました。

鰺坂　七九部も。たいしたもんですね。

児玉　はい。明星はフォルジャーに比べれば、まだまだとっても足元におよびません(＊18)。そしてロンドンのブリティッシュ・ライブラリーが五部持っている。

鰺坂　その次が明星ですね。

児玉　まあ、そういうことをいう方があるようですけど、明星は四部です。日本の本屋さんを経て入ったものもございますが、直接むこうでオクションをしまして入手したものもあります。

一九八〇年六月、大変めずらしいファースト・フォリオがオクションで出ました。これなどは最初のファースト・フォリオを作った時に、五、六、部何かオリジナル・バイニングでどうもそのうちの一つではないかということを、ニューヨークのフレミング(＊19)さんに聞きました。かつて自分がそれを所有していて、イギリスのコーリッジ(＊20)へ売った覚えがある。そのコーリッジはどこかの図書館へおわたしになり、その図書館から今度オクションに出たのではないかと自分は思うがそれだろうということで、これは非常に貴重なオリジナルのバイニングです。大事に所蔵されるようにと注意を受けまして、これが四番目に入ったファースト・フォリオでございます。

あとセカンド・フォリオが六冊ございます。この中には大変おもしろいのがございまして、実はロンドンの郊外のコーリン・フランクリン(＊21)さんという本屋さんにまいりました時、そこで見せてもらったのが、駐英アメリカ大使にイギリスの協会が記念に送った本なんです。それが箱入りでして、その箱にちゃんとその主旨が書いてありました。それがフランクリンさんの手元に入り、これはおもしろいぞといわれて分けていただいたものでございますが、そういったセカンド・フォリオが一つございます。それからサード・フォリオはファーストについで部数が少ないですね。

鰺坂　そうですね。火事があって焼けたとか。

児玉　六六年のロンドン大火で、セカンド・フォリオの中にファースト一種とセカンド一種というのがありますが、

だいぶ焼けまして、それで三版は割と少ないということですね。私のほうではその三版を、一六六三年と四年と二種類、それから中には三年四年を一緒にしてあるサード･フォリオといっておりますが、そういうものもございますが、その六四年というのを三冊もっております。

それから六三年四年と一緒になったのをこれも一部持っているわけで、合計サード・フォリオが四冊、それからフォース・フォリオが五冊ということで、ファーストからフォースまでちょうど十九部所蔵しています。

鯵坂　これは世界で三番目ですよ。きっと。

児玉　一〇番目くらいには入るんじゃないかと思っているんですが……。それからクォートにつきましては、フォリオ以前のものとかあるいはそれ以後に出来たものもございますが、一〇点ばかり多少いいのをもっております。

鯵坂　この間いただいたシェイクスピア生存中にでたという『キング･リア』(＊22) のクォート､これをたくさん刷ってご父兄みんなに配られたという。生存中のフォリオはなかなかないでしょうね。

児玉　一五､六部しか残っていないと聞いております｡明星大学で所蔵しておりますのはごく一部のものですが､今､鯵坂先生がおっしゃったように『キング・リア』とか、一五九四年に出ました『ルクリーズ』(＊23) という、これは初版でございまして世界に一〇部くらいしか残っていない。その一つを、これはロンドンのコーリッジという書店を通して、入札で購入したものでございますが大変めずらしい本でございます。

それからあと『ザ・ライフ・オブ・ジョン・オブ・キャッスル』(＊24) これも一六〇〇年くらいのものだろうといわれています。それから『ヘンリー五世』(＊25) でございますね。一六〇八年に初版が出ています。この本は一六〇八年というタイトルページの印が入っているんですけれども、人によっては、これはひょっとすると一六一九年かもしれんという。いろいろ詳しく調べてみますと、そういうものがあるようでございますね。

それからあと一六一九年の『ヨークシャ・ツワリティー』(＊26) と、一六三〇年にロンドンで出た『オセロ』(＊27) でございますけれども、これも大変現在では貴重なものになっております。また『ハムレット』(＊28) は初版、二版というあたりは、ほとんど数部しか残っていないということをいわれております。最近、所蔵いたしましたのは五版で一六三七年のものでございます。これと七六年の六版を手に入れました。

その他ハムレットについては各国の、例えばイギリス版のもののほかにフランス版のハムレット、それからドイツ語版のハムレット、イタリア版のハムレットとか、また朝鮮ですね、コーリャン・エディションまた、ラトビアン・エディション、ポルトガル、ロシア、セルビア、スペインと出来るだけ各国で出版されたハムレットを、イギリスのものが勿論土台ですけれどもそういうものを……。

研究者垂涎の書

鯵坂　私のほうもついこの間『ハムレット』が一冊入りました。それは第六版の書で、何といっても明星大学に比べれば微々たるものですが。私ども英文科をもっているものですから、毎年シェイクスピア祭典というのを学生がやります。四月の下旬か五月の上旬にかけて今年で一四回､一五回ですか。二時間半ばかり英語で簡単にやっています。私は学生に「感心なことをやっている。あなた達に何かごほうびを買ってやる」ということで、シェイクスピアを考えいろいろあたったところセカンド・フォリオが入り、それからサードとフォースが入りました。

どうしてもファーストがほしいと思っていたところ、具合よく入りました。朝日新聞に大きく書いてくれまして、寿岳（＊29）先生と大塚（＊30）先生からお褒めの言葉をいただき、これは本当に宝です。明星大学からみますと何分の一ですけれども、それでもやっぱり、それを手にして見る学生の気持ちを尊重していと思って購入しました。関西のあちこちからよく英文学の先生がお見えになって「せめて一六二三という活字をさわらしてくれ」とおっしゃる。ここまでいくと信仰ですよね。私は「かまわんからどうぞ」といったんですが、ある人が来て「そこだけ汚れて

しまうから、白い手袋をはめてやりなさい」という。

専門家になると一六二三のそこをさわってシェイクスピアの昔を、この気持ちは非常に尊いものだと思います。ですから現物があってこれを見てやるのと、なくてやるのと『受ける教育的感化というのは違うだろうと思っています。

児玉　鰺坂先生がおっしゃったことは、本当に私は、特に大学の図書館では大事なことだと思います。先生、ご謙遜になっていますが、ファースト・フォリオからセカンド、サード、フォースとお持ちです。貴重なものを甲南女子大学の図書館に所蔵されていて立派なものだと思います。

鰺坂　日本では明星大学についでということですが、こっちは四冊、明星大学は十九冊持ってらっしゃる。シェイクスピアを専門にやられる方が私の大学に二人おります。それからワーズワーズが一人おられます。ディケンズ（＊31）もおります。そういう方には何でもいいからとにかくディケンズを集めろ、ワーズワーズ（＊32）を集めなさいと。そうでないと何か集まりにくいと思うんですが……

ドイツ語のほうは一般教育でやるだけですけれども、若い人でヘッセをやっている人がおりまして、たまたまヘッセが出たという情報が入ったものですから、一揃い買おうということで、ヘッセを買いました。これはアメリカからのコレクションでしたが、この時も出来る限りヘッセを集めろと。ですから出た本は出来る限り買います。児玉学長がおっしゃった、ファースト・フォリオが四冊あってもいい、セカンドは三冊あってもかまわん。だからヘッセを何冊あってもかまわないから買えということで……。大事なものはいくつあってもいいということを言って、明星で言われてそうだと思っているんだと言いまして、ヘッセがいくらか集まりました。

児玉　前からヘルマン・ヘッセがあると聞いておりました。

鰺坂　文部省から補助金をもらいました。これは有難いことでしたけれども、どうやらこうやら関西にはめったにないコレクションが集まりました。ちょうど一昨年でしたか、大学の六十周年でこれを展覧しましたら、関西のいろいろな先生が見えて大変喜んでいただきました。

児玉　鰺坂先生が今おっしゃったことは、特に大学の図書館では大事なことだと思います。特に大学の図書館では大事なことだと思います。先程おっしゃいましたね、稀覯書も同じものが二つや三つ重なってもいいんじゃないかという話しですね。例えばよく私どものシェイクスピアのファースト・フォリオをそんなに何部も持ってそうするんだと、こういうことをおっしゃる方があるんですが、実は一九八〇年一〇月の初めにニューヨークの本屋にまいりました時にも、フレミングさんという八〇歳のおじいさんから「何故、あなたのところは何冊もフォリオを集めているんだ」という質問がその場にございました。私はフォリオが何冊あっても、同じフォリオというのはないように思うと、こう答えましたら、フレミングさんは自分もそう思うということをおっしゃいました。

確かに同じような形やら内容を揃えていますけれども、見れば見るほど皆違いますね。ページ、活字そういうものだけでなく、バインディングする時にページを落としたりしたものもあるし、それぞれ本には例の所属、所蔵の表がございますが、同じフォリオの中に二つとか三つとか四つとか、その所蔵された方のこの移り変わりがわかるようなものがございます。で、結局ああいう稀覯書にふれるだけでも一つの教育じゃないかと、学問の一つの指導になるんじゃないかと鰺坂先生のお話しでしたが、まったくそれは同感でございますね。

図書館運営と館員の育成

鰺坂　それから、研究とあまり関係ないとおっしゃるんですけれども、例えば装丁の問題ですね。これは女子大ですから綺麗な装丁のものをごく浅はかな考えで買いました。最近のアメリカのものとかフランスのものとか、この間、寿岳先生の所にまいりましたら「君、装丁というのは非常に大事なんだ。これはまさにその時代の芸術だと思え」とおっしゃって寿岳先生の『ダンテの神曲』をなんとか三浦（＊33）というイギリス人と結婚している人が、一冊、

六〇万円の装丁をしてくれたと、これは芸術だとおっしゃるんです。

私はなるほど「怪我の功名」でいいものを買ったと思ってお伺がいしますと、装丁などあまり気にしない人が多い。これはやっぱり大事なもんですね。

児玉　大学教育と図書館というのは切っても切り離せない問題で、明星大学のほうでも非常に皆苦労して、やはり少しでも理想に近いと思われるような図書館にしていきたいという努力をいたしております。

一つの活動として立派な本を所蔵するという、これは大変な仕事だと思います。そしてこれと並行して、やはり学生のためにどういうサービスをするかということですね。

これから稀覯書など、その都度学生に見せるわけにもまいりませんし、マイクロフィルムなどにとって、マイクロ化を是非すすめていきたいと思っています。これからの多勢の学生諸君にサービスを提供するには、やはりマイクロ化の方法によらなければならないと思います。

鰺坂　私どもの大学でも、開架式にするかいろいろ議論はあったんですが、そう大きな大学図書館でもないですけれども、思いきって開架してやれと、本の中の学生達がやるという、これでいいのではないかと思っていますが、今のところ時々本がなくなるようです。残念ですがね。だんだん進めていかなければいけないと思っていますが。

まあだいたい開架のほうがいいかなと思ってやっていますがね。男の子がいると多少やんちゃですからね。そういう心配があると思いますが、図書館の悩みはこの辺に一つあるかと思います。それと図書館員の訓練、これは非常に大事ですね。私のところは一二名でやっていますけれども……。図書の整理ですが、和書を持ってますと虫や紙魚が入ってくる。あれは大変なんですね。

天理図書館にいってどうしていますかとお聞きしましたら、やっぱり部屋を作って燻製にして殺して、なかなかそれでも死なないそうです。洋書の場合も多少あります。けれども、和書を持っているとどうしてもそういうようなことがあるということで、館員の訓練が必要になってくるということで、これからの問題はそこにあると……。

数年前、イギリスのガードナー（＊34）さんが日本に見えて、図書館で一番大事なものは図書館員だとおっしゃっていましたが、なるほど確かにそうだと思いまして、図書館の会議がありますとそれを受け売りするんですね。やっぱり図書館員というのは、訓練は非常に大事に尊重しなくてはいけないということを教えてもらいました。

児玉　先生がおっしゃるように、図書館も図書館員の方が一番大事で、図書館の方がたに勉強をしていただくように、またいろいろな意味で活動を助けていくようなことを、お互いに考えなくちゃいけませんね。

鰺坂　勉強していますよ。この間グーテンベルクの聖書（＊35）が一部入ったんですけれども、私もどこの部分かわからないので調べてくれといったら、すぐに調べてくれました。旧約聖書で何とかというところだといって、なかなか学問しています、図書館の方は。こんなこともありましたね、この装丁、誰がやったかということがわからなかったもんですから、見てて調べて見つけ、「これは何という本に出ている立派な装丁家です」といって。図書館員は語学が達者でなくてはいけないし、勉強していなくてはいけませんね。

児玉　鰺坂先生は、人文系の学校では図書館は教育研究中心でなくてはいけないということを先程伺がいましたが、私もまったく同感です。学生に対するサービスを先程申し上げましたように、どういうふうにしたらいいか、明星大学の場合には例えば学生のために、直接その学部学科の勉強に必要なそういうものを中心に集めております。

これは各研究室の先生方からこういうものを学生に是非読んでほしいと、そういう本を推薦していただきまして、それを何部か基本図書としておき、それから図書館自体で選んだものもありますし、学生からいろいろ希望の図書を集めております。利用者を中心にこれからやっていこうということで、その部分だけは館内を開架で閲覧場所を作りまして、今そこには三〇、〇〇〇冊くらい入っております。

鰺坂　私どもでも参考図書というものであるみたいですが。

児玉　全国の大学図書も、私ども知らないような稀覯書をお持ちになっていたり、図書館としての新しいシステム

でおやりになっているところもあると思うんですが、そういう図書館相互のいろいろな情報交換とかを、綿密に行ってほしいものです。このようなことは図書館協会などでおやりになっているようですけれども……。

日本の大学の図書館の八〇〇校に、私のところはささやかながらこういうところを苦労してやっていますというのを少しでも知っていただいて、万一利用したいという希望があれば、コピーでも何でもとってさしあげるということで、シェイクスピアカタログを作り送付したんですが……。

鰺坂　これは日本の誇りですね。例えばシェイクスピアありますという。私どもの学校にもご送付いただき、図書館長が大変喜んでいましたよ。

児玉　先生のほうでもヘルマン・ヘッセとか……。

鰺坂　フォルケルトとかやりまして、まだこれからですよ。

児玉　将来どういうふうに図書館を学生のため、また先生方のために役立てていくかについては、先生のご高見を拝聴したいと思います。

鰺坂　お互い、苦労のあるところを一つ話し合っていったらいいかと思います。

児玉　今日はお忙しい中、ありがとうございました。

昭和 56 年　ラジオたんぱ「新春対談」

〔解題〕

『児玉三夫対談集～教育の源流を求めて～』（1987 年）
対談テーマ；「大学教育と図書館」

鯨　井　俊　彦※

はじめに

児玉三夫先生と鰺坂二夫先生による対談「大学教育と図書館」（昭和 56 年ラジオたんぱ「新春対談」）の解題を次の要領で進めたい。

対談は以下のような内容になっている。この対談の「小見出し」に沿って（注）を付け、その（注）の中で解題もするという形で進めていきたい。

（小見出し）① 図書館の思い出・・・・・・・・・・・・・・（注）1 ～ 6.
② 碩学の師と図書館に恵まれた・・・・・・・（注）7 ～ 14.
③ 稀覯書収集のこと・・・・・・・・・・・・・（注）15.
④ シェイクスピア・コレクションのこと・・・（注）16 ～ 26.
⑤ 研究者垂涎の書・・・・・・・・・・・・・・（注）27 ～ 30.
⑥ 図書館運営と館員の育成・・・・・・・・・（注）31 ～ 35.

① 図書館の思い出・・・（注）1 ～ 6.

1・成城高等学校の教育精神

「人生は真善美を理想とすると言われるが、学校は真理行われ道理が通り又美的の所でありたい。私は現在の社会にはこの理想は中々行われ難いと思うが学校には比較的よく此の理想が実現されると信じている。世の中には無理が沢山あり不徳の事があり醜悪のことがある。学校には無理があってはならぬ。不道徳が行われたはならぬ醜事があってはならぬ。いやしくも道理に適ったことは学校では通さねばならぬ。道徳も然り。（中略）学生は真理と道徳とをあくまで尊重し、その前には従順に頭を下げなければならぬ。否校長も主事も教師も然り。故にいやしくも道理と信じ道徳と考えることはあくまで之を主張すべきである。而して非理や不徳はあくまで之を斥けなければならぬ。真なり善なりと信ずることは一歩も枉（ま）げない気魄をもたねばならぬ。理と善とに依らば疚しい所はない、何人に対しても恐れる所はない。学生は自ら省みて疚しからざる生活を自ら営むべきである。学校は一つの小社会である。而かも道徳と道理が行はるるとせば一の理想の小社会である。社会は共同生活である。共同生活は自立独立のものが協力し和合し一致して生活することである。我が成城学園は一面あくまで独立自尊以て個性の暢伸を期すると同時に相互の間に和合があり協力があり一致があり扶助があらねばならぬ。（中略）我が成城学園の学徒は真善美を理想として其の実現を力る者であろう。されど時に過つことがある。非理不徳の行に陥ることがあろう。唯我が学園の学生は其の非を指摘されまた自ら覚るときは潔く其の過ちを悔い改めるものでありたい。決して包み隠すようなことあって

※ 明星大学名誉教授

はならぬ。（中略）近時二十に近き高等学校が新たに設けられたが、その多くは一高を学ばんと力めている。予を以て見ればその幣を学んでいる。茲に於いて新設高等学校の他に於いては失望している。我が高等学校は断じて他の幣を学んではならぬ。一高の誇り称するは自治である。真の自治は甚だよい。自治も形式のみでは駄目。自学自習と自治自律はわが成城の特色として範を天下に示したい。七年制高等学校は試験的といはるる、今尚数校を存するばかり。十二歳より十九歳。一律にするを得ない。わが成城学園は実は十三年制である。（中略）成城学園に一つの校風を作りたいものである。道理と道徳を重んじ、非理と不徳を悪み、表裏なく、気高く而も柔和で、学生間に重んぜらるる者は運動技術の優れた者や力の強い者でなく、操守堅実な者でありたい。」（『全人』第 19 号、1928 年 2 月 10 日発行「沢柳先生記念号」および『成城の教育―（高等学校建設の理由）』（1926 年）より抜粋。これは後に「成城高等学校の教育精神」と題して今日まで語り伝えられている。）〔原文の旧漢字は出来るだけ現行のものに改めてある。〕

2・沢柳政太郎（さわやなぎ・まさたろう　1865〔慶応元〕－ 1927〔大正 2〕）

明治後半から大正初期にかけて文部行政の中枢的位置を占めた官僚でありながら、大正中期以降は成城小学校を中心に新教育運動の展開を指導した異色の教育学者。1884（明治 17）年に東京大学文学部哲学科に入学、1888（明治 21）年同学科を卒業。卒業後は文部省に入り、1906（明治 39）年文部次官に昇格までの 18 年の間に、中学校・高等女学校・実業学校の三本立てからなる中等学校法制の整備，第三次小学校令による初等教育法制の確立、小学校教科書国定制の実施、および義務教育六年制の施行準備など、第二次世界大戦中の改革をみるまで存続するわが国普通教育制度の原型を形づくった。その後、1913（大正 2）年に京都帝国大学総長に転じた。1916（大正 5）年全国規模の教員団体である帝国教育会の会長に就任、教員の地位向上や自己研修の振興などに努めた。一方、1917（大正 6）年、私立成城小学校を創設、子どもの自発活動を重んじた教育の研究と実践とを展開し、同校を大正新教育運動の中心的存在に育て上げた。そこでの代表的著作は『実際的教育学』1909（明治 42）年で、従前の教育学が教育実践から遊離した観念的性格に甘んじていることを厳しく批判し、教育の事実を対象とした科学的研究の建設を提唱したことで知られる。『沢柳政太郎全集』（全 10 巻・別巻 1）がある。

3・ナトルプ／文庫

ナトルプ（Natorp, Paul Gerhard　1854-1924）

ドイツの哲学者、教育学者。新カント学派の代表的一人としてマールブルク大学で 41 年間哲学教授を務めるかたわら、1887 年から「哲学月刊誌」の編集者となる。観念論的な基本姿勢を堅持してプラトンとカントの哲学を結合させ、プラトンの理想主義の再獲得に努めた。教育学ではペスタロッチーを高く評価し、カントの批判的方法よりペスタロッチーの復活を唱えてヘルバルトの教育学を批判し、自らの立場を社会理想主義と称して、社会的観点を取り入れた応用哲学としての教育学を体系化した。すなわち、社会はあらゆる個人をその目標と内的自由へと覚醒させる使命があり、その意味で社会教育学は社会政策と社会経済の上におかれる。しかしすべての社会的規制は、人間形成の最後の目的への手段になるにすぎず、結局は家庭生活がすべての教育の基本条件となる。社会を支える教育機関は一面的な文化の創造ではなく、意志と心情と宗教の発達のための空間を生み出して社会的統一を目指す学校としての統一学校であると唱えた。

ナトルプ文庫・・・ナトルプ文庫は元ドイツマールブルク大学教授パウル・ナトルプの蔵書である。この文庫が当時の成城学園に収蔵された経緯は、次のようである。「ナトルプ教授の没後諸方の熱心なる希望があったにも拘らず、当時我学園当局者のこれに対する非常なる熱意と、又我国に於ける最も知名の教育家及教育学者である沢柳小西両博士と故人との個人的関係により、ナトルプ夫人が我学園に対し特別の好意を寄せられたことによって、大正 14 年 1 月遂に本文庫は我学園に譲与せられ、遠く本学園図書館に収蔵せらるるに至ったのである。」（この『ナトルプ文庫

蔵書目録』の原題は BUECHERVERZEICHINIS DER BIBLIOTHEK PAUL NATORUP　SEIZYO-GAKUEN TOKYO 1938 となっている。 文言はこの目録の「序」から引用した。引用は原文のまま・漢字は新漢字に変換してある。）この目録に掲載されている図書総部数は 4454 冊である。そして、その内容は大項目で次の 14 に分類されている。

I.　PHILOSOPIE（Nr.1351.）II.　RELIGION（Nr.1670）
III.　PSYCHOLOGIE（Nr.1865.）IV.　PAEDAGOGIK（Nr.3331.）
V.　STAATSWISSENSCHAT UND POLITIK（Nr.3388.）
VI.　RECHTSWISSENSCHAFT（Nr.3459.）
VII. WIRTSCHAFTWISSENSCAFT（Nr.3481.）VIII.　SOZIOLOGIE（Nr.3573.）
IX.　GESCHICHTE（Nr.3715.）X.　MATHEMATIK（Nr.3836.）
XI.　NATURWISSENSCHFT（Nr.4012.）
XII. SPRACHE, LITERTUR, UND KUNST（Nr.4254.）
XIII. VERSCHIEDENES（Nr.4276.）
XIV. ZEITUNGEN UND ZEITSCHRIFTEN ALLGEMEINEN INHALTS（Nr.4283.）、und HANDSCHRIFTTEN UND BRIEFE（Nr.4454.）。
（なお、Nr.―とは、蔵書目録の図書に当てられた番号の数字である。）

4・小原国芳（おばら・くによし　1887〔明治 20〕― 1977〔昭和 52〕）

玉川学園ならびに玉川大学の創立者。日本における新教育開拓者の一人。京都帝国大学卒業後、広島高等師範附属小学校理事として、初等教育改革に尽力、その後、1919（大正 8）年、私立成城小学校長沢柳政太郎に招かれ、同校の 2 代目主事となる。1921（大正 10）年に「八大教育主張講演会」で全人教育を提唱。小原の全人教育は、ペスタロッチーの頭と心と手の調和的発達の考えを基調にしている。それを受けて 1929（昭和 4）年、全人教育を徹底するために、玉川学園を創設した。そして、1952（昭和 27）年には、『ペスタロッチー全集』（全 6 巻）し、西洋教育宝典シリーズで刊行（このうちの一冊が田尾一一訳『リーンハルトとゲルトルート』である）し、同時に、理論と実践の融合をめざし、ペスタロッチー精神をもって全人教育の実践に邁進した。

5・フォルケルト（Volkelt, Johannes　1848-1930）

ドイツの哲学者、美学者。感情移入美学の代表者。主著『美意識論』1924 年

6・銅直　勇（どうちょく・いさむ　1889〔明治 22〕― 1979〔昭和 54〕）

大分県出身。1908（明治 41）年広島高等師範学校（国語漢文部）入学、1912（明治 45）年卒業、同年 4 月和歌山県粉河中学校教諭。1914（大正 3）年、広島高等師範学校専攻科入学、同年 9 月、京都帝国大学哲学科（社会学専攻）入学、（大正 6）年 7 月卒業。大原社会問題研究所嘱託、「日本労働問題史」編集を担当。その後、1921（大正 10）年京都帝国大学大学院入学、西田幾多郎教授、米田庄太郎教授の指導を受ける。1925（大正 14）年 3 月、同大学院退学。同年 4 月より日本大学法文部講師となる。1926（大正 15）年成城高等学校教授、1934（昭和 9）年、成城高等学校長、成城高等女学校長、成城小学校校長、成城幼稚園長となる。1943（昭和 18）年 4 月熊本師範学校長となる。戦後は、日本大学文学部・文理学部・大学院文学研究科教授を歴任、1969（昭和 39）年明星大学教授・人文学部長となり、数多くの師弟の教育にあたる。この間、社会学・社会史の分野において極めて多くの独創的な学問的成果を挙げている。

② 碩学の師と図書館に恵まれた・・・（注）7 ～ 14.

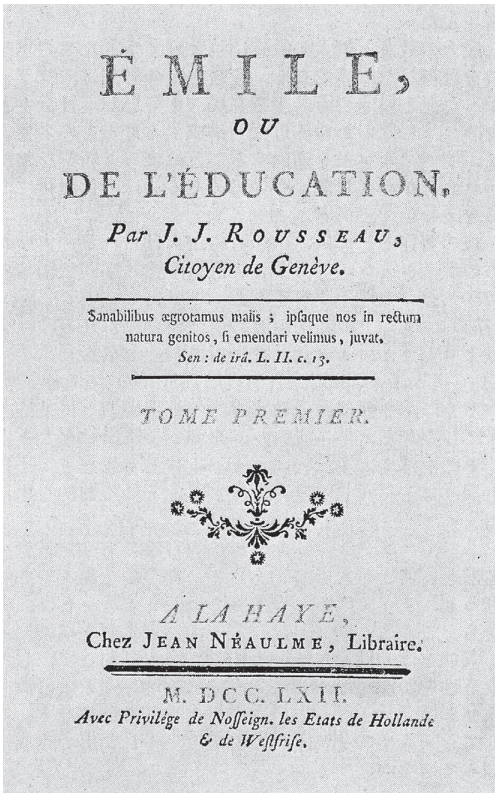
7・エミールの初版本（Rousseau, J-J　1712-1778,　Emile, ou de l`education, 1762.）

ルソーはスイスのジュネーブの時計屋の息子として生まれたが、彼が生まれたために母を失い、また、彼の父も早く出奔した。その後彼自身も放浪の生活を続けたため、ほとんど組織立った教育を受ける機会をもたなかったけれども、早熟であったためか、生活と独学を通して、深く広い教養を身につけることができた。しかもあくまで、自己の内心の直感に忠実な預言者的な天才であった。

30 歳のとき、パリに出て、当時の啓蒙思想家たち、いわゆる「百科全書派」の俊英、ダランベール、ディドロ、コンディヤックなどと交わった。当時の時代や社会のもつ矛盾と堕落を指摘する点において、ルソーは彼らの主張と一致していたけれども、その解決法については必ずしも彼らと見解を一つにしなかった。ルソーは心に内感する法則によって、人間をジ自由ならしめ、自由の正しい行使に基づく平等の社会を構想していた。百科全書派がむしろ、人間の理性による社会改革を意図していたのに対して、ルソーは「自然に還れ」と強調した。やがてルソーは多くの著作を通して、縦横に活躍した。思想家として、文学者として主権在民、平等、革命、教育、小説などの広い分野にわたって多くの問題を提起し世間を驚かした。

「エミール」とは彼の教育論であり、教育小説である。この書の中に出てくる主人公の男児の名前を書名としたものである。「神の手を出るとき、すべてのものは善であるが、人間の手に移されるとすべてのものが悪くなってしまう」とは、「エミール」の劈頭の有名なことばである。このことばこそルソーの根本思想を端的に表現しているといえる。彼によると、教育には（1）自然の教育（能力と器官の内部発展）（2）事物の教育（経験）、および（3）人間の教育〔（1）の利用〕の三種が含まれる。そして、完全な教育のためにはこの三種の教育の合致が必要である。とくに「自然の教育」を中心にしてエミールの教育論は進められていく。従って、「自然を観察するがよい、そして自然が示してくれる道を行くがよい」「子どもは教師の弟子でなく、自然の弟子である」ということになる。

ルソーに続く教育思想家としては汎愛学派の祖バゼドウとペスタロッチーがいるが、その彼らに大きな影響を与えている。


ÉMILE,
OU
DE L'ÉDUCATION,
Par J. J. ROUSSEAU,
Citoyen de Genève.
Sanabilibus ægrotamus malis ; ipsaque nos in rectum natura genitos, si emendari velimus, juvat.
Sen : de irâ. L. II. c. 13.
TOME PREMIER.
A LA HAYE,
Chez JEAN NÉAULME, Libraire.
M. DCC. LXII.
Avec Privilége de Nosseign. les Etats de Hollande & de Westfrise.

『エミール』

8・西田幾多郎（にしだ・きたろう　1870〔明治 3〕－ 1945〔昭和 20〕）

近代日本の哲学者。西田哲学を築き上げ、京都学派を創始した。京都大学教授。古今の西洋哲学を意欲的に吸収し、フッサール現象学のいち早い紹介者でもあったが、仏教をはじめとする東洋的思惟の上でそれらを生かそうと努めた。『善の研究』（1911）は知情意の合一にして主客未分である〈純粋経験〉の概念を提起し、一般知識人にも愛読された。初期のフィヒテ的主意主義を経て、『働くものから見るものへ』（1927）以降、〈場所の論理〉ないし〈無の論理〉の立場を探り、思索し続けた。西田哲学は、見たり聞いたりする経験を「深く掴む」ことから始まる。つまり、西田の思索はその出発点をなす『善の研究』における「純粋経験」の立場から、第二の著作の『自覚における直観と反省』（1911）において「自覚」の立場に転じ、さらに「場所」の立場に展開する。『善の研究』が刊行されたとき、すでに高橋里美は「徹底的に独創的な思想」が盛られていると評したが、やがて論文「場所」（1926）が発表されると、当

時新カント学派の経済学者である左右田喜一郎はこの論文に独特な性質の思索と哲学史上の新しい意義を見いだし、「西田哲学」と呼んだ。この呼称が西田の思想の展開とともに学界・思想界に流布し定着した。

9・田辺　元（たなべ・はじめ　1885〔明治 18〕― 1962〔昭和 37〕）

西田幾多郎とともに京都学派の第一世代を形成する哲学者。東京大学で初めは数学を専攻するが、のち哲学に転ずる。1913（大正 2）年東北大学理学部に赴任し科学概論を担当。『数理哲学研究』（1925）などを著して、わが国の科学哲学・数理哲学の草分けとなる。カントおよび新カント学派の研究にも従事し、『カントの目的論』（1924）などの優れた業績を生み出す。西田の招きに応じて 1919（大正 8）年に京都大学文学部に転任、1922（大正 12）年ドイツに留学してフッサールから現象学を学び、ハイデッガーとも交わる。ヘーゲル弁証法との苦闘は『ヘーゲル哲学と弁証法』（1932）などの著作と〈絶対弁証法〉の構想に結実。その後、国家社会の構造を究明する〈種の論理〉を提唱し、ここに田辺独自の哲学を確立した。

10・波多野精一（はたの・せいいち　1877〔明治 10〕― 1950〔昭和 25〕）

宗教哲学者。東京大学にてケーベル博士に師事し、西洋哲学史を研究。24 歳にして名著『西洋哲学史要』を上梓。1904（明治 37）年から 2 年間ドイツに留学。帰国後、早稲田大学の講師を経て、京都大学教授に就任。その後は主に宗教哲学に没頭した。『宗教哲学序論』『宗教哲学』『時と永遠』の三部作はその結実、これによりキリスト教信仰を基底とする独自の宗教哲学を確立した。その特色は宗教理解における宗教的体験に宗教的経験の重要性に着目することにある。『波多野精一全集』（全 6 巻）がある。

11・小西重直（こにし・しげなお　1875〔明治 8〕― 1948〔昭和 23〕）

教育学者。1901（明治 40）年東京帝国大文科哲学科卒。その後ただちにドイツ留学。フォルケルトに師事して教授学を身につけた。帰国後は広島高等師範教授。文部省視学などを経て、1913 年京都帝大文科大学教授となり、同年文学博士の学位を受領。1927（昭和 2）年沢柳政太郎のあとを受けて成城学園総長となり、1933（昭和 10）年京都帝大総長に転じた。著書『最新女子教育学』『学校教育学』などがあるが、『小西博士全集』全 5 巻　玉川学園出版部 1935（昭和 12）年刊にまとめられている。

12・和辻哲郎（わつじ・てつろう　1889〔明治 22〕― 1960〔昭和 36〕）

文化史家・思想史家として多彩な著作活動をするとともに倫理学者として「和辻倫理学」と称される独自の倫理学を形成した。初期和辻は哲学青年あるいは文学青年ともいうべく、その才筆は『ニ―チェ研究』『セーレン・ケェルケゴオル』『偶像再興』の早期の著作に示される。明治末年から大正にかけて自己形成を遂げる知識人に共通の文化主義、教養主義的色彩を和辻は強くもっている。和辻はやがて文献学的方法をもって古代文化に視線を注ぎ、解釈学的方法をもって美学、文学的形象を通して生の表現を読み取る文化史家として活動を始める。そのような文化史家としての和辻の紙質が最初に示されたのは、名著『古寺巡礼』（1919）である。1921（大正 10）年、雑誌『思想』の編集にあたる。東洋大学教授を経て、1925（大正 14）年、京都大学に招かれ倫理学を担当する。『日本精神史研究』（1926）『原始仏教の実践哲学』（1927）を著す。昭和 2-3 年ドイツに留学する。その間の異質な風土体験から「風土性」にたった文化比較の視点を得、『風土―人間学的考察』（1935）を刊行する。『風土』は『古寺巡礼』とともに和辻の多くの著書のうちでももっとも広く一般に読み続けられている書である。1934（昭和 9）年に東京大学教授に転じ、倫理学を担当する。「間柄的存在」としての「人間」の視点から『人間の学としての倫理学』（1934）で西洋倫理学を批判的に再構成した和辻は、独自の倫理学の構築に向かった。主著『倫理学』全 3 巻。

13・天野貞祐（あまの・ていゆう　1884〔明治 17〕－ 1980〔昭和 55〕）

哲学者、教育家。神奈川県津久井郡鳥屋村に生まれる。最初は医師を志し、独協協会中学校（独協学園）に入学、野球にふけり学業を怠る。その後、病をえたりしたため、退学。1905（明治 38）年、21 歳で復学。この間、内村鑑三の諸著作を読み、深い感銘を受け、教育者に成ろうと決心。1906（明治 39）年第一高等学校に入学、九鬼周造、児島喜久雄らと交わる。岩本禎教授から教育者になるなら哲学をやれとすすめられ、1909（明治 42）年桑木厳翼を慕って京都帝国大学哲学科に入学、主として桑木のもとでカント哲学を学ぶ。1912（大正 2）年大学院に入学。1914（大正 4）年第七高等学校ドイツ語教師として鹿児島へ赴任。1919（大正 9）年に西田幾多郎の推薦により学習院教授に転任。1923（大正 13）年ドイツ留学。ハイデルベルク大学でリッケルト、ホフマン、ヘリゲルらに学ぶ。1926（大正 15）年京都帝大文学部助教授となり西洋哲学史を担当（のち和辻哲郎のあとを受け倫理学担当となる）。1930（昭和 5）年『純粋理性批判』訳了。1931（昭和 6）年教授となり、文学博士号を授与される。戦後、1946（昭和 21）年に一校校長に就任。1948（昭和 23）年辞任、日本育英会会長となる。

1953（昭和 28）年母校独協学園長となり、1964（昭和 39）年独協大学を創立、初代学長となる。1969（昭和 44）年大学紛争で独協大学をしりぞく。この間、中央教育審議会会長、自由学園理事長、国立教育会館初代館長などを歴任。

14・ロバート・バーンズ（Burns, Robert　1759-96）

イギリス（スコットランド）の詩人。A. ラムジーの作品や民謡に親しみ、モスギールに移って耕作に従事しつつ詩作した。『詩集―主としてスコットランド方言にて』（Poems, chiefly in the Scottish dialect, 1786）を出版して成功し、エディンバラに赴いて歓迎され、再び詩集を出版した。祖国愛と真情の吐露を特色とする 18 世紀末の詩風の改革者であり、イギリス方言詩人中の第一人者である。

③ 稀覯書収集のこと

④ シェイクスピア・コレクションのこと・・・（注）15 ～ 28.

15・フォルジャー・シェクスピア図書館（Folger Shakeaspear Library）

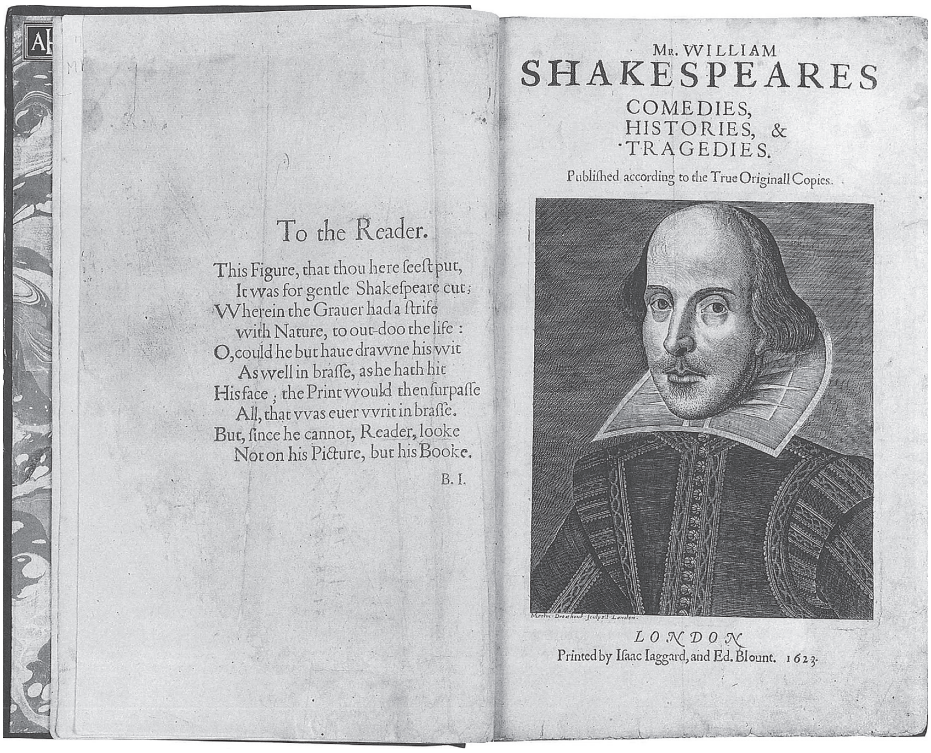
フォルジャー・シェクスピア図書館はワシントン D.C にある主にシェイクスピア研究のための文献を多数所蔵している図書館である。フォルジャーという名称は創立者のフォルジャー（Folger, Henry Clay, 1857-1930）の名前をつけたものである。フォルジャーは弁護士であり、実業家であった。アマースト大学を卒業（1879）、スタンダード石油会社（the Standard Oil Company）に就職、幾つかの子会社の職員として働くことになった。その間、コロンビア大学の法律学校も卒業している（1881）。その後、1911-1923 年まで、スタンダード石油会社の社長を務め、1923-28 年まで顧問を務めた。シェイクスピア研究図書館の建設に邁進するため、28 年に石油会社を引退する。そして、シェイクスピアの貴重な版本やエリザベス朝時代の戯曲類を所蔵するための図書館を、彼の妻（Emily Jordan Folger）とともに建設することに専念した。建物が完成したのは 1932 年であった。しかし、フォルジャーはその前年の 1930 年に亡くなっていて、その完成を見なかった。その後，幾人かの館長の努力によってシェイクスピア研究に関する資料を所蔵するようになって今日に至っている。なかでも、シェイクスピアのファースト・フォリオ（1623）を 79 部所蔵を初め、16 世紀、17 世紀に出版されたクォートー版を数多く所蔵していることは有名である。

他にも、1641 年以前に出版された英語で書かれた図書類をフォルジャー・コレクションとして所蔵し、17 世紀以降のルネッサンスと王政復古期に出版された版本や写本なども多数所蔵している。

16・フォリオ版（二つ折本）Folio〔fouliou〕

書誌学用語ないし図書館用語として使うとき、略して‘2°’と表記することもある。
印刷用語としても日常的に使われる語で、全紙を一回だけ折りたたみ、2 葉 4 ページとする書物のつくりを意味する。この呼び名は大きさを意味するものではないが、シェイクスピア時代の全紙の寸法はまだ多様化しておらず、似たり寄ったりの縦 34cm 横 23cm のものとなった。ベン・ジョンソンの 1616 年の『作品集』や、シェイクスピアの 1623 年の戯曲全集は、いずれも二つ折本である。シェイクスピアの戯曲全集で二つ折本形式をとったものは 4 版 5 種類あり、いずれも 17 世紀の出版。すなわち、没後 7 年目に出版された第 1･二つ折本（1623）、続く第 2･二つ折本（1632）、第 3・二つ折本の第 1 刷（1663）、第 3・二つ折本の第 2 刷（1664）および第 4・二つ折本（1685）である。第 1・二つ折本は現在 200 部あまりしか存在しないが、二つ折本形式をとった戯曲全集としては上述のジョンソンの『作品集』に続く史上第 2 番目のものであり、イギリスにおける戯曲集としても第 9 番目にあたる。喜劇･歴史劇･悲劇集とうたったタイトル・ページのほぼ半分をマーティン・ドルーシャウトの制作になる銅版肖像画で飾っているが、肖像画付き作品集としては、戯曲では、アレグサンダー（William Alexander, Earl of Stirling, ? 1567-1640）の戯曲集第 3 版（1616）、サミュエル・ダニエルの全集版（1623）に続いて、第 3 番目のものである。

肖像画を説明する 10 行詩のなかで‘gentle Shakespeare’と書いたジョンソンは、当時のシェイクスピア評論とも言うべき 80 行の追悼詩も寄せている。そのほか形式的な献辞が 3 編ついている。シェイクスピアのかつての同僚役者であった 2 人の編者、ジョン・フレミングとヘンリー・コンデルは、読者にあてた挨拶文のなかで、「書き損じがほとんどなかった」シェイクスピアの仕事ぶりを語ると同時に、生前に出版されたいくつかの作品は海賊行為による不完全な本文であったが、今回のこの二つ折本で完全なものにしたということを述べている。同じ趣旨は、「真の原典に従って出版」というタイトル・ページの文言にも端的に現われている。シェイクスピアの属していた宮内大臣一座の役者 26 名を列挙した「主要俳優」一覧に続いて、喜劇、歴史劇、悲劇の順で 36 編の作品が収録されている。


To the Reader.

This Figure, that thou here seest put,
It was for gentle Shakespeare cut;
Wherein the Grauer had a strife
with Nature, to out-doo the life:
O, could he but haue drawne his wit
As well in brasse, as he hath hit
His face; the Print would then surpasse
All, that was euer writ in brasse.
But, since he cannot, Reader, looke
Not on his Picture, but his Booke.

B. I.

Mr. WILLIAM
SHAKESPEARES
COMEDIES,
HISTORIES, &
TRAGEDIES.
Published according to the True Originall Copies.

LONDON
Printed by Isaac Iaggard, and Ed. Blount. 1623.

フォリオ表紙（本学所蔵）

この「二つ折本」をつくるにあたり、編者たちは原稿や既刊の四つ折本を収集して本を編集したが、その本文は概して良好である。しかし、複数の植字工が仕事を手分けして同時に受け持ち、しかも折りの都合上、ページ順ではなく、12 ページを 1 つの単位として 6-7 － 5-8 － 4-9 － 3-10-2 － 11-1 － 12 ページという独特な順序で植字したので、巻中のあちこちに多少の手違いが起きて本文上の問題を残すことになった。

第 2・二つ折本は第 1・二つ折本を印刷所原本とし、その本文を約 1,700 箇所において改訂した。第 2・二つ折本をもとにして組み直した第 3・二つ折本の第 1 刷が出たが、すぐ続いて第 2 刷が、『ペリクリーズ』および外典と呼ばれる『ヨークシャーの悲劇』など 6 編の作品を追加収録して出版された。第 3・二つ折本の第 2 刷をもとにして組み直し、その本文を約 750 箇所において改訂したものが第 4・二つ折本である。

因みに、シェイクスピアでは First Folio（1623 年に出版された最初の二つ折本）を指すこともある。

17・クォートー版（四つ折本）Quarto〔kwɔ:tou〕

書誌学用語ないし図書館用語として使うとき、略して‘4°’と表記することもある。印刷用語としても日常的に使われる語で、全紙を 2 回折りたたみ、4 葉 8 ページとする書物のつくりを意味する。このつくりの書物の平均的な大きさは縦 24cm 横 18cm 前後のものとなった。四つ折本はシェイクスピア時代のごく一般的な書物のつくりで、戯曲を含む文学書や説教集、宗教論争のパンフレットなどに多く使われた。戯曲本は通常 100 ページ前後の小冊子で、その値段は 6 ペンスであった。生前に出版されたことがわかっているシェイクスピアの戯曲は全部で 18 編、そのうち『ヘンリー六世・第 3 部』の不良本『ヨーク公リチャードの実話悲劇』だけが初版（1595）を八つ折本で出したが、ほか 17 編は四つ折本での公刊であった。初版だけで終わるものも版を重ねるものもあったが、再販もののなかには、初版の出版年をそのまま再刻したものもある。俗に「ペイヴィアの四つ折本」と呼ばれるものはとくに有名でる。これは、出版者トマス・ペイヴィアが印刷者ウィリアム・ジャガードと共同してシェイクスピアの作品集を公刊しようと企て、1619 年に 10 篇の作品を合本形式で世に送り出したものである。どの作品も初版四つ折本の再版であるから、書誌学的にはそれぞれ独立した版本ということになるが、合本したうえで共通のタイトル・ページをつけているので、外見上は作品集の形式を一応整えている。シェイクスピアにとって最初の作品集である。合本された作品は。『ヘンリー五世』（第 3 版）、『ヘンリー六世・第 2 部』『ヘンリー六世・第 3 部』（第 3 版）、『リア王』（第 2 版）『ペリクリーズ』（第 4 版）『ウィンザーの陽気な女房たち』（第 2 版）などの不良本と、『ヴェニスの商人』（第 2 版）および『夏の夜の夢』（第 2 版）などの善良本を初め、『ヨークシャーの悲劇』（第 2 版）や『サー・ジョン・オールドカッスル』第 1 部（第 2 版）などの外典である。

本の大きさを示す語で全紙を四つに折った「四つ折本」。標準は 9½ × 12½ インチ大で、しばしば Q; 4to; 4° などと略す。シェイクスピア・テキスト原版の研究に大切なもの。

18・明星大学シェイクスピア蔵書の概要

本学図書館のシェイクスピア・コレクションは、1973 年 7 月にフォルジャー・シェクスピア図書館から 4,761 冊（3830 点）の蔵書を譲り受けたことから始まる。その後、これを母体として 16 世紀から 20 世紀かけて、内外の書籍を収集して、1980 年には第 1 巻になる『Shakespeare and Shakespiariana　No. Ⅰ』のカタログを発刊した。この中には、シェイクスピアのフォリオ本（1623 年刊）やクウォートー本（四つ折本）をはじめ、1660 年以前に出版された英国で出版された戯曲本 168 冊やいわゆる「レストレイション・ドラマ」（Restration Drama）と言われる 930 点などが含まれている。1986 年には、第 2 巻に当たる『Shakespeare and Shakespiariana No. Ⅱ』を発行、約 6,000 点の図書が新しく加えられた。1993 年には『Shakespeare and Shakespiariana　No. Ⅲ』が発刊されている。

19・ニューヨークのフレミング

ニューヨークにある古書・稀覯書を扱っている古書店名のこと。

20・イギリスのコールリッジ

イギリスのロンドンにある古書・稀覯書を扱う歴史のある古書店名のいこと。

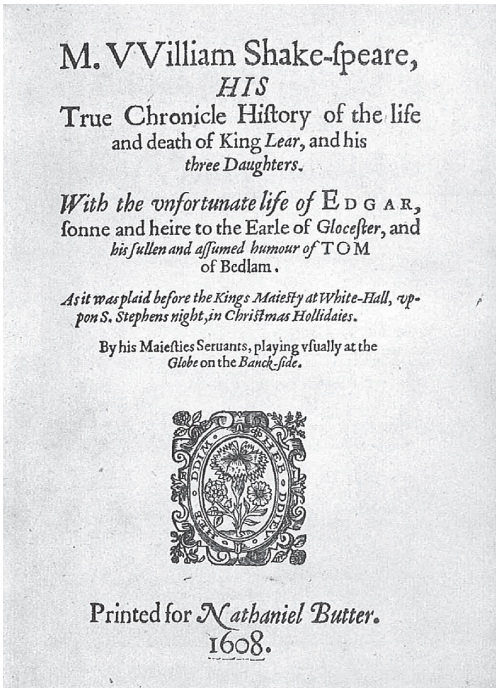
21・コーリン・フランクリン

ロンドンの郊外にある古書・稀覯書などを扱う古書店のこと。

22・クォートー版『リア王』（*The History of King Lear*、1608（1619）年刊）

『リア王』は民話のような世界の中で開幕する。リア王は自分の王冠とブリテンの地図といった物に単純な意味と価値を与え、それらを三人の娘のために分割し、分配できるようにする。しかし物語が進行するにつれ、自然のさまざまな力、国内外の戦争の準備、そして悪意のある人間たちにより、この居心地のよい家族や王国、宇宙というイメージは切り裂かれる。『リア王』はシェイクスピア劇の中でもっとも情け容赦のない悲劇として、人間の尊厳の本質を深く追求しているものと言えよう。シェイクスピア 1590 年ごろに上演された『リア王年代記』という劇を知っており、またイングランドの初期の国王であったこの歴史上の人物についてはホリンシェッドの『年代記』からその知識を得た。シェイクスピア存命中に上演された記録は、1606 年 12 月 26 日に宮廷で上演された 1 回のみである。しかし早くも 1608 年には四つ折本で出版され、1623 年の『第 1・二つ折本』にも収録されていることから、この戯曲は劇場の観客に人気があったと言えるだろ。高尚な人間も丸裸にされれば　、傷つきやすい無力な存在であることを示す『リア王』は、間違いなくシェイクスピアの作品中、もっとも大胆に人間性を究明したものである。今日、『リア王』はすべての時代を通して、西洋のもっとも偉大な作品の 1 つとして知られている。

本学所蔵の 1608 年の King Lear の扉（title page）にある標題の名は *VVilliam Shake-speare, HIS True Chronicle History of the life and death of King Lear, and his three Daughters*・・・となっているのであるが、VV は当時、U の代わりに使われていた V を二つ組合せて後にできた W（double U）であって、sp, st はそれぞれ sp, st である。明星大学所蔵のクォートー版（4 つ折り本）King Lear は善本（Good Quarto）の「リア王」の原版である。非常に貴重なもので、ところどころに修理の手を加えてあとがあるが、原版の一般的状態をよく保存し、44 枚のテキストは完全、大きさは縦 180mm、幅 134mm、縁も uncut（縁を切らずに揃えないまま）の数頁を残し、紙質の生地（きめ）も良好である。製本もきわめて綺麗で、やわらかによくもんだモロッコのなめし皮の表紙は緑色が勝っていて、四隅と中央にある金縁の装飾も見事で、羊皮紙の背は少々色褪せていて、やや褐色を呈している。


M. VVilliam Shake-ſpeare,
HIS
True Chronicle Hiſtory of the life
and death of King *Lear*, and his
three Daughters.
With the vnfortunate life of EDGAR,
ſonne and heire to the Earle of *Gloceſter*, and
his ſullen and aſſumed humour of TOM
of Bedlam.
As it was plaid before the Kings Maieſty at White-Hall, vpon S. Stephens night, in Chriſtmas Hollidaies.
By his Maieſties Seruants, playing vſually at the
Globe on the *Banck-ſide.*
Printed for *Nathaniel Butter.*
1608.

『リア王』（18.7 × 13.9㎝）

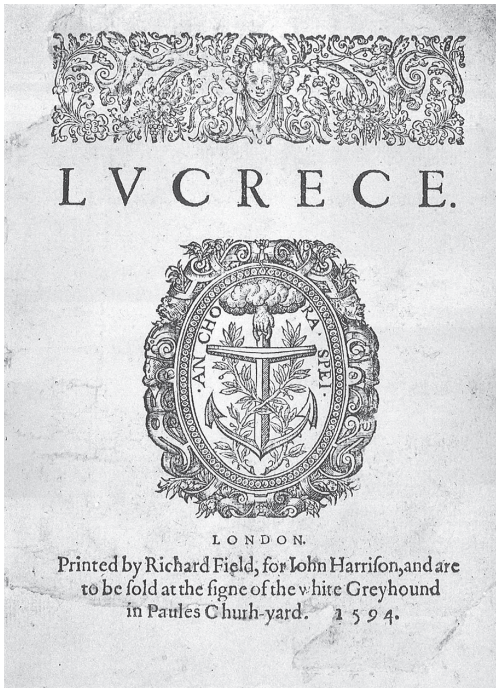
『リア王』には、基本的に Q1（1608 年刊）と F1（1623 年刊）の 2 つの本文がある。Q1 は 1607 年 11 月 6 日ナサニエル・バターによって書籍商組合に登録され、翌年オウクスの印刷で出版された。F1 本文は、注の加えられた Q1 というより、注の加えられた Q2 にもとづ

くとされる。Q1 には 300 行ほど F1 が印刷していない部分があるのに対し、F1 は Q1 にみられない 100 行を含む。（パンフレット「シェイクスピア研究に貴重なる Quartos（四つ折本）悲劇 *King Lear*〈Shakespear 探究に深奥の基礎解明資料の稀覯本〉」（明星大学　人文学部　英語英文学科教授　百瀬　甫　記）より抜粋）

23・クォートー版『ルークリース』（*The Rape of Lucrece*,『ルークリース陵辱』、1594 年刊）

シェイクスピアの物語詩。詩型はライム・ロイヤルで、ababcc と押韻する弱強 5 詩脚 7 行を 1 連とする。全 265 連 1855 行。出版登録は1594年5月9日。同じ年に、シェイクスピアと同じストラットフォード出身のリチャード・フィールド印刷、ジョン・ハリソン出版の四つ折本の初版が出された。

内容：この作品はローマの王子タークウインが貞淑な人妻に対して行った有名な陵辱事件を語る詩である。この詩の暗いテーマと濃密な言葉は、『ヴィーナスとアドーニス』の献辞の中でシェイクスピアが「さらに品位ある作品」を献上すると約束しているものがこの作品であることを示している。この作品では、シェイクスピアは登場人物の感情と、彼らが悲劇的経験を明確に表現するために用いる言葉に焦点をあてている。修辞的にすばらしく、道徳的でありながら真実を探り出そうとするシェイクスピアの『ルークリース陵辱』には、演劇的な魅力もある。

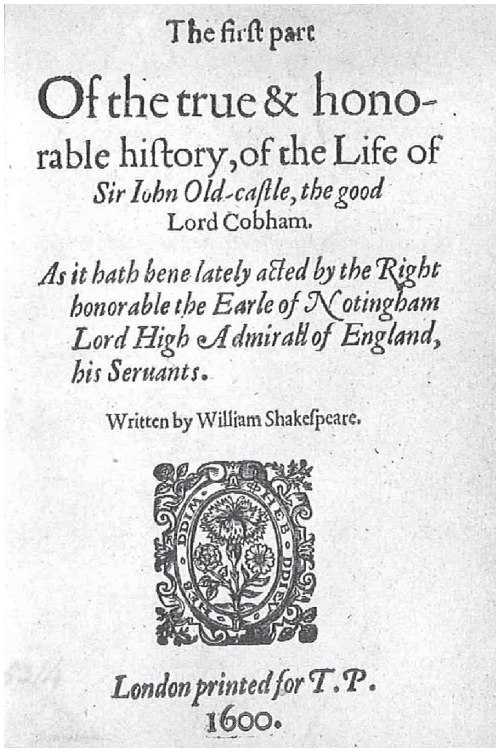

LVCRECE.

LONDON.
Printed by Richard Field, for Iohn Harrison, and are to be sold at the signe of the white Greyhound in Paules Church-yard. 1594.

『ルークリース』（18.1 × 13.5㎝）

24・クォートー版『ジョン・オールドキャッスル卿』（*The History of Sir John Oldcastle, the Good Lord Cobham*、1600 年刊）

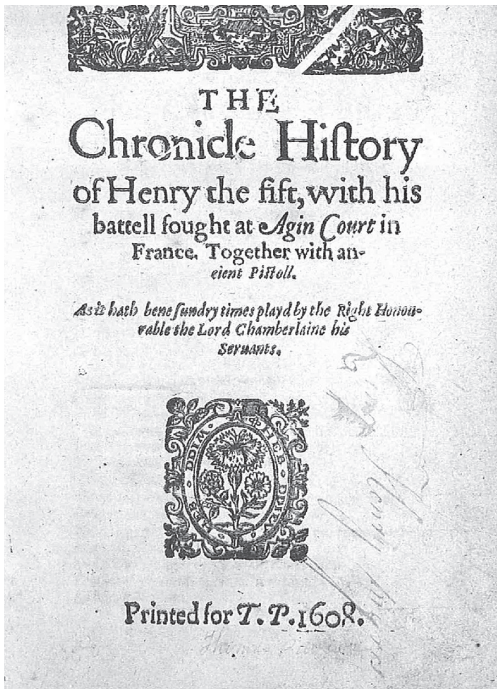
1600 年の初版本では著者の名前が書かれていなかったが、1619 年の再販においてシェイクスピアの作品であることが謳われた。国王一座によって上演された記録が残っていること、『ヘンリー四世』（第 1 部・第 2 部）に実在の人物ジョン・オールドキャッスルをきわめて滑稽なキャラクターとして登場させたため遺族から抗議を受け、フォルスタッフと名前を変えざるをえなかった経緯がある事から、シェイクスピアが詫び状代わりにジョン・オールドキャッスルを偉大な人物として描いた本作を執筆したのではないかと推察されていた。実際には、海軍大臣一座を主宰した興行主フィリップ・ヘンズローの日記において、アンソ＝マンディ、マイケル・ドレイトン、リチャード・ハサウェイ、ロバート・ウィルソンの合作であることが記録されている。


The first part
Of the true & honorable history, of the Life of
Sir Iohn Old-castle, the good
Lord Cobham.
As it hath bene lately acted by the Right honorable the Earle of Notingham Lord High Admirall of England, his Seruants.
Written by William Shakespeare.
London printed for T.P.
1600.

『ジョン・オールドキャッスル卿』
（17 × 11.6㎝）

25・クォートー版『ヘンリー五世』（The Life of Henry the Fifth、1608〔1619〕年刊）

この『ヘンリー五世』は、シェイクスピアの作品中もっとも愛国的な戯曲である。『リチャード二世』『ヘンリー四世・第一部』に比べると叙情性が少ないが、これは新たな四部作に取り組んだ劇作家の決意の表れであろう。なぜなら、二つの四部作が扱う 87 年間のイングランドの歴史で、国家の栄光が保たれていたのはヘンリー五世の治世だけであるからだ。しかしエリザベス女王は王位簒奪者を嫌っており、シェイクスピアはヘンリー五世に、彼の父が力で王位を掴み取ったという事実を忘れさせるわけにはいかなかった。ほかの歴史劇と同様に、ホリンシェッドの『年代記』を主に利用しているが、作者不詳の『ヘンリー五世の有名な勝利』や、この時期を扱ったサミュエル・ダニエルの史書なども利用している。『ヘンリー五世』はシェイクスピア存命中にも人気があり、18 世紀初期には凡庸な翻案が作られたりしたが、1730 年以来イングランドでは絶えず上演されてきた。


THE
Chronicle History
of Henry the fift, with his
battell fought at Agin Court in
France. Together with an-
cient Pistoll.
As it hath bene sundry times playd by the Right Honou-
rable the Lord Chamberlaine his
Seruants.
Printed for T. P. 1608.

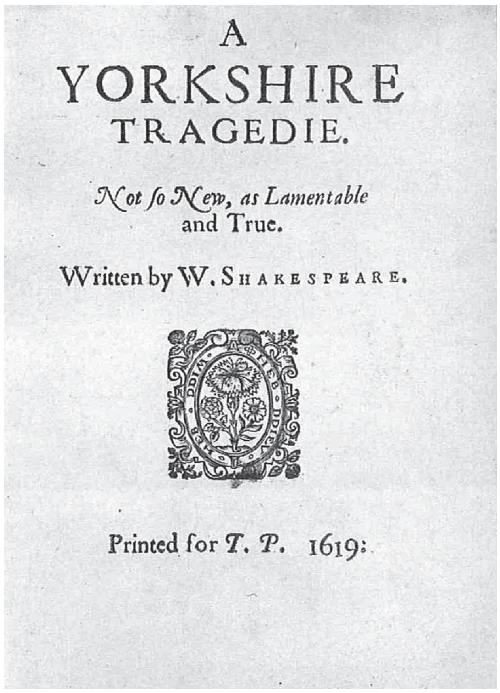
『ヘンリー五世』（18.1 × 13.5㎝）

J. ロバーツ（書籍商兼印刷業者登録 1570-1606）によって 1600 年 8 月 4 日、『お気に召すままに』、『ヘンリー五世』、ベン・ジョンソンの『十人十色』および『空騒ぎ』の 4 作が「予備」登録された。その 10 後、『ヘンリー五世』と『十人十色』は版権が T. ペイヴィアーに移され、正規に登録された。それにもかかわらず、T. ミリントンと T. バズビーの発行、T. クリードの印刷で、『ヘンリー五世』Q1（悪本）が同年 1600 年に出版された。　明星大学のこの本は 1619 年の Q3 にあたる、善本である。

26・クォートー版『ヨークシャーの悲劇』（A Yorkshire Tragedy、1619 年刊）

作者不詳の家庭悲劇。1608 年の書籍出版業組合記録の記入でも、四つ折本でも、作者はシェイクスピアとされている。シェイクスピアの戯曲全集では、『第 3・二つ折本』の第 2 刷（1664）と『第 4・二つ折本』（1685）には収められている。今日では、シェイクスピアをその単独作者と見なす学者は少ないが、四つ折本のタイトル・ページに国王一座によってグローヴ座で上演されたとあることから、シェイクスピアがいくつかの場面を書いたか、あるいは書き直したという説もある。物語は、精神錯乱のうちに 2 人の子供を殺し妻に重傷を負わせて、1605 年に処刑されたウォルター・キャルベリー（Walter Calvery）の実話に基づいたもので、暴力に満ちた家庭の悲劇を生硬ではあるがリアリズムの筆致で描いている。

シェイクスピア外典（Shakespeare Apocryha）とは、かつてはシェイクスピアの作品正典）とみなされたいたものの、現在では別人によるものと判定された、もしくは真作である可能性はあるが断定する根拠に乏しい一群の作品のことである。この『ヨークシャーの悲劇』も 1596 年に匿名で出版され、1656 年に刊行された書店のカタログで

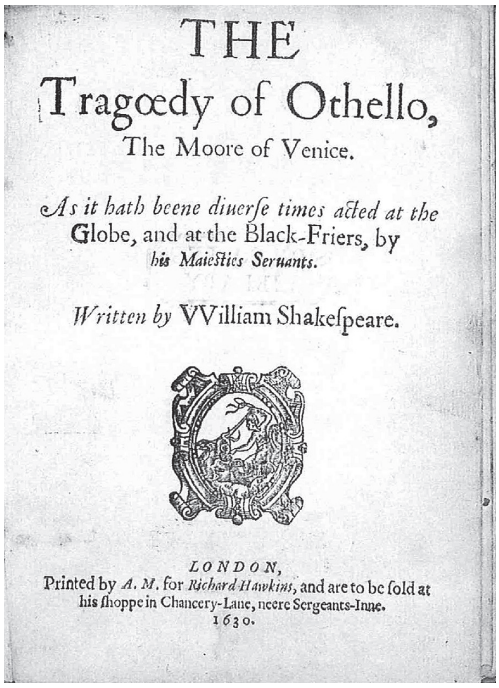

A
YORKSHIRE
TRAGEDIE.
Not so New, as Lamentable
and True.
Written by W. SHAKESPEARE.
Printed for T. P. 1619.

『ヨークシャーの悲劇』
（19 × 14.1㎝）

はじめてシェイクスピア作と記された。大半はきわめて凡庸ながらも、部分的には作者の天賦の才能を示すようなくだりも見られるため、シェイクスピアの手が加わっていると考える学者も多い。1996 年、イエール大学出版局は大手の出版社としてはじめてこの作品をシェイクスピアの名前で刊行した。その後まもなく、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーがこの戯曲を上演した。アメリカでは 2001 年にカーメル・シェイクスピア・フェスティバルではじめて本格的に上演された。この作品は駆け出しであったころのシェイクスピアを含む数人の作家集団による共作であるということで学者の間でも意見が一致しているが、誰がどの部分を書いたかについては議論の余地が残っている。オックスフォード版全集第 2 版（2005 年）にもこの作品は収録されているが、作者は「シェイクスピア他」とされている。

27・クォートー版『オセロー』（ The Tragedy of Othello, the Moor of Venice、1630 年刊 ）

『オセロー』において、シェイクスピアはもっとも憎むべき悪漢ともっとも苦悩する悲劇の主人公を創り出した。この復讐劇の傑作は、病んだ心の動きを息を飲むような細やかさで追い、愛を変貌させ、殺人まで犯すほどの嫉妬へとかりたてる言葉の力をつきつめている。『オセロー』シェイクスピア存命中に 3 回上演された記録が残っている。最初は 1604 年 4 月にグローヴ座で、その年の 9 月にオックスフォードで上演されたものが記録されている。オセローの誠実さ、愛、純粋な高潔さと対比されるイアーゴーの病的な極悪非道さは、ほかの劇作品の中を探しても、これを凌ぐものはない。このように黒人のムーア人オセローを使い、シェイクスピアは当時の観客が抱いていた人種に対する固定観念を覆し、見せかけの欺瞞と憶測にひそむ大きな危険をえぐり出そうとしている。この『オセロー』の出版登録は初演から 20 年近く遅れた 1621 年 10 月 6 日、翌年第 1・四つ折本（Q1）出版。つづいて翌 23 年の第 1・二つ折本全集の悲劇の部第 9 番目（歴史劇と悲劇のあいだに入れられた『トロイラスとクレシダ』を悲劇の部に数えれば 10 番目）に収められた。F1 は Q1 にない約 160 行を含み、Q1 は F1 にない 10 数行を含む。このように、それぞれの成立過程、また両者間の関連などの問題はシェイクスピアの本文批評でも難問の 1 つになっている。


THE
Tragœdy of Othello,
The Moore of Venice.

As it hath beene diuerse times acted at the Globe, and at the Black-Friers, by *his Maiesties Seruants.*

Written by VVilliam Shakespeare.

LONDON,
Printed by *A. M.* for *Richard Hawkins*, and are to be sold at his shoppe in Chancery-Lane, neere Sergeants-Inne.
1630.

『オセロー』（18.8 × 14.2㎝）

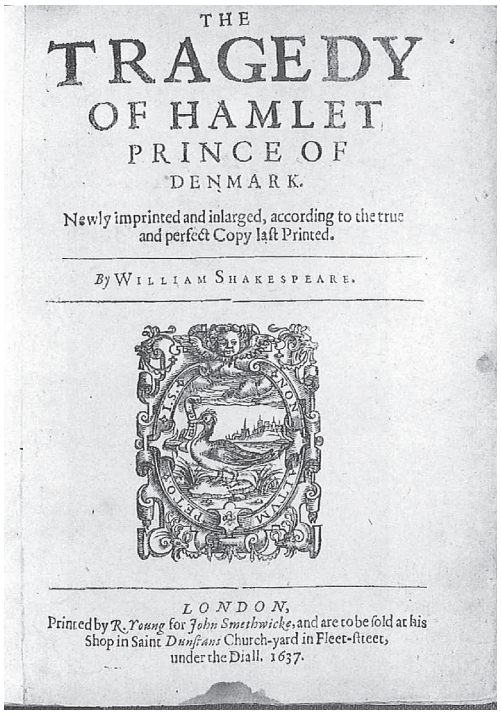
この『オセロー』は研究の結果 Q2 に当たる。

28・クォートー版『ハムレット』（The Tragedy of Hamlet, Prince of Denmark、1637 年刊）

『ハムレット』はシェイクスピアの最初の傑作であり、英語で書かれたおそらくもっとも偉大な悲劇である。この戯曲については、シェイクスピアの他のどの戯曲よりも分析され、議論されてきたが、それでもシェイクスピアの技法や人間の心理に関して、多くの謎が残っている。何世紀もの間、『ハムレット』に取り組むことが演出家、俳優、学者にとって通過儀礼となってきた。この作品は 1660 年にオックスフォードで上演されたと見られるが、シェイクスピア存命中にロンドンで上演された記録は残っていない。しかしこの劇では作者が生きている間に四つ折本で出版され、『第 1・二つ折本』にも入っているので、人気があったことは確かだ。ハムレットの物語は、復讐を遂行するために狂気を装ったアムロジという庶民の英雄を扱った古代スカンジナビア伝説に、その源を見出すことができる。年代記編者サクソ・グラマティカスは後にアムロジのなごりを残しながら、歴史上のデンマーク王子アムレスを描いた。

シェイクスピアの手によって、『ハムレット』の物語は風変わりな庶民の英雄伝から、親族との関係だけでなく政治によってもかき乱された家族の中で、自分の位置を見つけ出そうと奮闘する王子の話に変えられた。

ハムレットのテキストで、信頼できるものには1604-5年の第2・四つ折本（Q2）と1623年の第1・二つ折本（F1）の2つがあり、どちらがより信頼できるかについては議論が分かれている。F1ではQ2にあった約230行がカットされたうえ、新たに約80行が加えられており、その変更のやり方に一貫性があることからF1は実際の上演を反映した改訂であろうと言われている。もっとも古いテキストは1603年の不良四つ折本であるQ1で、1604-5年のQ2のほぼ半分の長さしかなく、ボローニアスの名がコランビスになっているなど違っている点が多い。そんほか、四つ折本にはQ1（1611）、Q4（年代表示なし）、Q5（1637）があるが、いずれも再販にすぎない。


THE
TRAGEDY
OF HAMLET
PRINCE OF
DENMARK.
Newly imprinted and inlarged, according to the true and perfect Copy last Printed.
By WILLIAM SHAKESPEARE.
LONDON,
Printed by R. Young for John Smethwicke, and are to be sold at his Shop in Saint Dunstans Church-yard in Fleet-street, under the Diall. 1637.

『ハムレット』（21 × 16.2㎝）

⑤研究者垂涎の書・・・（注）29 ～ 32.

29・寿岳文章（じゅがく・ぶんしょう　1900〔明治33〕－92〔平成4〕）

昭和時代の英文学者。和紙の地理的歴史的研究、書物論や私版発行にもかかわる。大正13（1924）年京都帝国大学文学部専科入学、英文学専攻、昭和2（1927）年修了。京都専門学校、龍谷大学、関西学院大学、甲南大学などの教員。ウィリアム＝ブレイク、書物論、和紙に関する多岐にわたる研究を行う。晩年ダンテの『神曲』を訳す。各方面の業績を通じて共通の一定した美意識が見られる。著書『イルヤム・ブレイク書誌』『日本の和紙』『書物の世界』などがある。

30・大塚高信（おおつか・たかのぶ　1897〔明治30〕－1979〔昭和54〕）

英語学者。1930年東京高等師範学校教授。戦後関西学院大学教授、甲南大学、甲南女子大学教授。著書『シェイクスピア筆跡の研究』（1949、創元社）『シェイクスピア及聖書』（1951、研究社）『書誌学の道―シェイクスピアを中心に』（1977、荒竹出版）などがある。

31・ワーズワーズ（Wordsworth, William　1770-1850）

イギリスの詩人。ケンブリッジ大学に学ぶ。在学中大陸に徒歩旅行を試み、翌年またフランスに遊び13ヶ月滞在。折からフランス革命が高潮に達し、彼もその理想に大いに心を動かされたが、恐怖政治の出現により深く失望し、後年は保守的になった。S. T. コールリッジと親しくし、共著《抒情歌謡集・Lyrical ballads, 1798》を出して、19世紀英国ロマン主義の口火を切った。単純、沈着な表現で自然と人生との内面的交感を歌い、真摯高邁の気に満ちた詩人で、コールリッジ、サウジーと共に湖畔詩人と呼ばれた。

32・ディケンズ（Dickens, Charles　1812 － 70・筆名：Boz）

イギリスの小説家。イギリス南部の港町ポーツマスに生まれる。家庭の都合で小さい頃は靴墨工場で働く。この貧困と屈辱の経験から大きな精神的打撃を受けたらしい。その後、弁護士事務所で働きながら独学で速記を学び、議会

報道の記者になる。短編、スケッチ類の雑誌への寄稿が始まり、《モーニング・クロニクル》誌の記者に転身、それまでの雑誌記事を集めた《ボズのスケッチ、Sketches by Boz　1836》に続いて、月間分冊で《ピクウイック･ペイパーズ：The Pickwick papers, 1836-37》を発表し、一躍人気者になる。以後、多くの作品を執筆する。

《オリバー・ツイスト：Oliver twist, 1836-37》《ニコライ・ニクルビー：Nicholas Nickleby, 1838》、《骨董屋：The old curiosity shop, 1841》《アメリカ紀行：American notes, 1842》《クリスマス・キャロル：A Christmas Carol, 1843 》《デイヴィット・コパフィールド：David Copperfield, 1849-1850》《リトル・ドリット：Little Dorrit, 1855-1857》《大いなる遺産：Great expectations, 1860-1861》《二都物語：A tale of two cities, 1859》などがある。

⑥図書館運営と館員の育成・・・（注）33 ～ 35.

33・ティニ三浦（ティニ・ミウラ　1940 年一　　）

パリのエコールエスティエンヌ美術大学で著名なモンドーンジ教授に師事、製本製幀芸術を学ぶ。製本製幀を芸術にまで高めた功績によりスウェーデン政府から“芸術家マスター”の称号を授与される。特に 1963 年から製本製幀家の最高の名誉であるノーベル賞賞状の制作を行い、日本のノーベル賞受賞者、朝永振一郎博士や川端康成先生の賞状を制作した。

本学所蔵のオーディボン『Birds of America』の複製はティニ・ミウラ氏の制作した製本製幀である。

製本製幀工芸とは、いわゆる量産本の製本をいうのではなく、フランス語ではルリュール（reliure）に当たり、英語では hand bookbinding とか art of binding とかのことである。

一方、ブックバインディング（bookbinding）は日本語の〈製本〉と同義であり、製本工芸に当たる語はない。製本工芸家にあたる語は、デザイナー・ブックバインダー（designer book binder）といっている。

34・イギリスのガードナー（Gardner, Kenneth B. 1924-95 ）

イギリスの日本書誌学の研究家。ロンドン大学でフランス語と歴史学を専攻、第二次対戦中に日本語を学び、戦後さらに同大学東洋･アフリカ研究所で日本語を専攻する。英国博物館東洋刊本部長を歴任し、膨大な日本書籍（文学、漢籍、仏書、演劇、絵画他）の調査をし、古活字版などの出版文化についても研究した。今日におけるヨーロッパ所在日本古書籍調査の先駆けになる。山片ばん桃賞を受賞する。

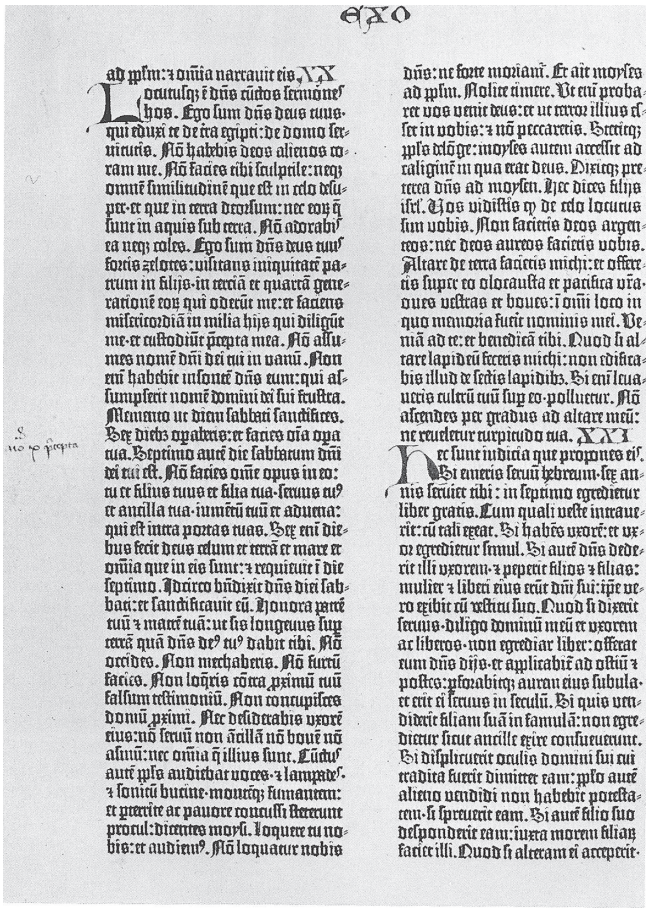
1976（昭和 51）年に明星大学に招聘､本学では「西洋人が見た日本美術」･「大英図書館の使命､現在と将来」の講演、また各地の大学等で講演会を開催した。

35・グーテンベルク聖書

1455 年頃ドイツのマインツで、鉛鋳造活字による印刷術の発明家ヨハン・グーテンベルク（1400 ? － 68）によって印刷されたラテン語聖書で、一般に『グーテンベルク聖書』といわれている。この聖書には、ベラム（子牛皮紙）刷と紙刷の二種類があり、ベラム刷は 25 部程度、紙刷は 120 ～ 200 部程度印行されたといわれるが、現存するもの 48 部（そのうちライプチヒにあった 2 部は第二次世界大戦後行方不明）、うちベラム刷 12 部、他は紙刷。そのうち完本はベラム 4 部､紙刷 18 部となっている。（1987 年現在）『グーテンベルク聖書』の所在地としては､ドイツ 14 部､アメリカ 12 部､イギリス 8 部､フランス 4 部､日本 1 部が知られている。『グーテンベルク聖書』には 1 冊にまとまったものの他に、1 枚ないし、2 枚の原葉（オリジナル・リーフ）が、世界の 220 ヶ所ほどに散在、本学図書館にも一葉がある。グーテンベルクの印刷した聖書には「三十六行聖書」「四十二行聖書」二つがあるが、そのうち本学で所蔵しているのは「四十二行聖書」の一葉である。1455 年に完成したといわれるこの聖書は、本文が二段組みで総数

642 葉、これに目次 4 葉付してある。各一葉には 3700 字以上の文字があり、頭文字（柱見出し）は、きれいに赤色と青色で彩色されている。使用活字は当時の代表的な書字体に範をとったゴシック体で、大きさは今日の 20 ポイント大にあたる。

本学所蔵の「グーテンベルク聖書」は、ニュートンという人が自分の持っていた端本を解体したうちの一葉で、旧約聖書の出エジプト記（Exodus）の第 19 章から第 21 章 9 節までの箇所である。用紙は、北部イタリア地方産出の原料を手で漉いて作ったもので、紙質はきわめて良好、縦 39cm、横 28.5cm で、中央に星とぶどうの房を配した牝牛の透かし模様（water-mark）がはいっているものである。コンディションもすばらしい。



『グーテンベルク聖書』（39 × 28.5㎝）

おわりに

本対談は「大学教育と図書館」というテーマで、大学教育の中での大学図書館が持つ役割の一つとして、明星大学図書館所蔵のシェイクスピアの各種の「版本」の例を具体的に説明しながら、主に書誌学的な観点から進められた対談であったように思う。

以下、そのことについての感想を 2, 3 思いつくままに記してみたい。

シェイクスピアに限らず、いかなる分野の文献でも図書館が所蔵する資料のうち、初版本とかオリジナルといわれる原本にあたる「版本」が重要であることを児玉先生、鯵坂先生とも意識され出したのは、この対談でも触れられている通り、お二人の先生が成城小学校、成城高等学校時代のナトルプ文庫との出会いから始まったのではないか，と思われる。

私の大学院時代の児玉三夫先生は、教育学演習や文献講読などの授業でよく成城学園時代の思い出を話されていた。そのうちの一つが、ナトルプ文庫が学校に木箱に入ってかなりの個数が届いた。それは当時の小原国芳先生が校長のときで、木の箱から本を取り出し書架に納める作業を当時の鯵坂先生と共にされたことをいつも懐かしそうに話された。それを「取り出したときのあの感激というのはわすれられませんね」（鯵坂）「ナトルプ文庫というのは成城の宝みたいなもの」（児玉）という対談中の言葉にも表れているように思う。その後、大学生活時代でも図書館での貴重な文献に出会うたびに哲学者の著作や教育学関係の著名な初版本などに接しられて、これが「図書館かと思って非常に感銘を受けたことをおぼえています。」（鯵坂）「大学図書館は・・・今までの高校とは違った、また規模が大きくて本もたくさんございますし、いろいろあいた時間とかいろんな暇な時に図書館に自由に出入り出来て、本当に良かったと思っています」（児玉）などの言葉からも貴重な文庫が大切なこと、図書館が貴重な資料を持つことの意義を了解されたと推察される。

このような経験をされて大きくなられた児玉先生はシェイクスピア・コレクションの収集に当たっても、ナトルプ文庫に出会った時と同じようなお気持ちで取り組まれていたと思う。大学教育にとってそれがなくてはならぬ資料で

あって、それを充実することは取りもなおさず図書館の格を高めることにも繋がるとの方針のもと万難をはいして質量ともに兼ね備えたシェイクスピア・コレクションの充実に生涯を懸けて取り組まれた。たとえば、版本を一冊もつだけではじゅうぶんではない。なぜなら、どれが著者の意図した真の本文（テキスト）といえるのかを確定するためには、比較検討するための種々多くのテキストを集めることが必要である。シェイクスピアの本文でいえば、テキストとして、フォリオの版本、クォートーの版本、さらに自筆原稿（マニュスクリプト）それぞれを比較検討することが大切である、と先生はいつも言われていた。このことで思い出すのは、先生がペスタロッチーの『コッタ版全集』（ペスタロッチーが生存中に出された唯一の全集）の復刻本を出されたときのことを思い出す。先生はこの時、ペスタロッチーの『隠者の夕暮』というテキストを 3 種類（一つは最初に出版された「版本」、二つ目はペスタロッチーの自筆草稿、三つ目は批判版と呼ばれた『ペスタロッチー全集』の中の本文）を厳密に本文の比較検討され、一行，一字をそれぞれ照合する作業を徹底して実施、その上で出版されたことでもわかる。（コッタ版『ペスタロッチー全集』は『隠者の夕暮』の 3 種類の本文をまとめた一冊を付け加えて、1986 年に発行された。）

これも、長年にわたって先生がペスタロッチーの足跡を巡って現地を訪れたり、沢山の資料を集めることを信念として進めておられたことで成し遂げられたことであった。児玉先生は「学校を経営し、子どもたちの教育に全生涯を捧げた」ペスタロッチーの生き方に強く共鳴されていたのも、このような信念にもとづいていたように思える。

多分、シェイクスピアに関しても、同じようなお気持ちで向き合われて「シェイクスピア本文研究」のメッカになるべく明星大学図書館の運営に全精力を注がれたのである。この先生の遺志を引き継いで、今後も超一流の古典をできるだけ所蔵すること、真の原本のもつ価値に重きを置いて収集していくことが課題であると思う。

参考文献

＊ 『岩波世界人名大辞典』（全二分冊）岩波書店辞書編集部編　2013 年刊

＊ 『近代日本哲学思想家辞典』中村　元・武田清子監修　東京書籍　昭和 57 年

＊ 『成城学園 70 年の歩み』成城学園　昭和 62 年刊

＊ 『ナトルプ文庫　蔵書目録』成城学園　1938 年発行

＊ 『岩波哲学・思想事典』広松渉　他篇　岩波書店　2004 年刊

＊ 『シェイクスペア大事典』　荒井良雄他篇　日本図書センター　2002 年刊

＊ 『シェイクスピア　ヴィジュアル　事典』新樹社　2006 年刊

＊ 『研究社　シェイクスピア辞典』高橋康也他篇　2000 年刊

＊ 『日本近現代　人名事典』臼井勝美他編　吉川弘文館　2001 年刊

＊ 『ペスタロッチー・フレーベル事典』

＊ 『*Encyclopedia Americana*』（vol.11）International edition. Grolier Incorporated, 1990.